

- I 問1 (a) 8 (b) 7 (c) 4 (ア) 2 (あ) 6 (い) 5  
問2 3・5  
問3 (1) 4  
(2) ブルボン家とハプスブルク家の対立とカトリックとプロテスタントの対立。  
(3) 1,5,2,4 (4) 3
- 問4 フランスにおいては、七月王政下に一部の富裕層に富が集中し、極端な制限選挙が行われたため、これに不満を持った民衆の間に選挙権拡大を求める動きが広まり、2月にパリで革命がおこり共和政の臨時政府が樹立された。ドイツにおいてはフランスの2月革命が波及し3月に革命が起きた。自由主義的内閣が成立し、統一国家の達成と憲法制定のためにフランクフルト国民議会が開催されたが、プロイセン国王は自由主義内閣を退けドイツ皇帝の地位も拒否したため、この試みは失敗に終わった。
- 問5 (1) 4 (2)(a) 1 (b) 4
- 問6 第二共和政の下で行われた大統領選挙でルイ＝ナポレオンが当選し、クーデターを起こして独裁権を握り国民投票によって皇帝となったことで、第二帝政が始まり第二共和政は終焉した。
- 問7 ナポレオン1世がプロイセンとの戦争に勝利し、プロイセン領ポーランドにワルシャワ大公国を建てた。その後、ポーランド立憲王国がそれを継承したが、ウィーン会議ではロシア皇帝がポーランド国王を兼ねることが定められ、実質的にはロシア支配が続いた。ロシアがクリミア戦争に敗れ、アレクサンドル2世が改革を実施すると、ポーランドの民族主義運動も刺激されてポーランド反乱がおきたが、失敗に終わった。その後、第一次世界大戦中にロシア革命が勃発したことを受け、1918年にポーランド共和国として独立を達成した。
- II 問8 (a) 2 (b) 6 (c) 5  
問9(ア) ラタナコーシン朝 (イ) ラーマ5世  
問10 3  
問11 フランスがベトナム北部・中部を支配下に置くと、清がベトナムへの宗主権を主張して派兵したことにより清仏戦争が起き、清は天津条約でベトナムへのフランスの保護権を承認した。  
問12 3

III 問 13 (1) (ア) 1 (イ) 6 (2) 2 (3) (あ) ラビン (い) アラファト (4) グラスノスチ

問 14 2

問 15 イランでは戦後、外国軍の撤退を要求する民族運動が広まり、モサデグ首相がアングロ＝イラニアン石油会社の国有化を宣言したが、国王派のクーデターにより失脚した。パフレヴィー2世による白色革命により近代化が行われたが、これに反対するイラン革命が発生し、ホメイニを中心とするイラン＝イスラーム共和国が成立した。

問 16 (1) 1 (2) イスラエルのシナイ半島返還、両国間の大使の交換。

問 17 チェコスロヴァキアでは、プラハの春と呼ばれた民主化を求める市民運動がおこり、ドプチェクは自由化を推進した。自由化の波及を恐れたソ連のブレジネフは、社会主義諸国は社会主義共同体としての利益を各国個別の国家利益に優先しなければならず、一国の主権は制限されてもやむをえないという制限主権論をもちだし、ワルシャワ条約機構軍を率いて軍事介入し改革の動きを抑えた。

問 18 3,2,4,1

問 19 (1) スペイン (2) (β) 8 (γ) 1 (δ) 7 (3) マッキンリー

問 20 (a) 1 (b) 8 (c) 7 (d) 6 (e) 5 (f) 3